

令和5年度 第1回（通算第54回） 山梨県立博物館 運営委員会 議事録

日 時： 令和5年6月5日（月） 午後2時～4時

場 所： 県立博物館 生涯学習室

出席者：

- 委員 相沢季里、市川美季、笹本正治、末木健、中山誠二
- 事務局 守屋館長、渡邊副館長、佐々木総務課長、近藤学芸課長、石神企画交流課長、
関係職員8名
- 観光部文化振興・文化財課 森原文化企画指導監

会議の次第：

- (1) 開会
- (2) 挨拶等
- (3) 審議
- (4) 報告
- (5) その他
- (6) 閉会

会議の概要

- (1) 開会

- (2) 挨拶等

- 館長挨拶
- 委員長挨拶

- (3) 審議

1. 令和6年度の企画展、シンボル展について【非公開】
2. 令和6年度の新規研究計画について【非公開】

※非公開理由：山梨県情報公開条例第8条第1号及び2号に規定する事項について
審議等を行うときに該当するため（指針第3条第1項）

- (4) 報告【公開】

1. 令和4年度の利用者状況について
2. 開催済み展覧会について
3. 資料・情報委員会の答申状況について
4. 新型コロナウイルス感染症に対応した展示室の利用制限の解除について

○事務局より報告1～4について資料3～6に基づき説明。委員からの意見は無し。

(5) その他【公開】

(委員)

- ・4月1日に改正博物館法が施行されたが、山梨県立博物館では対応を考えているか。

(事務局)

- ・博物館法改正を受けて、資料の公開・活用については、館として意識して取り組むよう検討しているが、具体的な方向性を考える段階にはなっていない状況である。

(委員)

- ・改正博物館法で重点が置かれているのがデジタルアーカイブの活用である。すでに県博でもホームページ等で対応している部分もあるが、資料閲覧室にある甲州文庫データを、デジタルアーカイブとして発信したらどうか。現在は閲覧室を訪れて見る形態になっている。県立図書館でも公開されているが、博物館のほうが膨大な情報量がある。甲州文庫については本物の資料を見たいという要望が多いが、資料保存の観点などからそれが難しいという状況のなかで、デジタルアーカイブの有効活用を検討していただきたいと思う。

(事務局)

- ・公開するための予算も必要だと思う。委員会の意見を拝聴した上で、ボトムアップしていく必要がある。現在でも労力としては限界ではないかと考えている。基本的に博物館は非常に専門的職員が少ない。県は展覧会などの表層的なところは評価するが、そういう地道な部分は評価してくれない。だから人材をつけてくれない分、予算を取っていかないといけない。基本的にはそういうところが、公文書館などにも反映されている。運営委員会の意見を拝聴したうえで、デジタルアーカイブ化を進められればいい。

(委員)

- ・今回甲州文庫のデジタル化の意見があったから予算要求をするなど、運営委員会からの発言を館が動きやすいように使っていただければと思う。

(事務局)

- ・当初予算の議論がはじまるので、今回の意見を踏まえて予算や今後の取り組みについて検討させていただきたい。
- ・最近の県の動向をお知らせする。知事から県立美術館ビジョンとして5つの方向性が示されたが、これはまさに博物館法改正が視野にある。これらの前提には、いままで美術館は展示や研究しか行ってこなかったという県の考えがある。県立博物館も様々な取り組み・貢献をしているが、それが県民・県庁まで届いていない。
- ・地域貢献、経済貢献、地場産業への貢献が踏まえられており、これは美術館だけに限ったことではない。博物館もまもなく20周年を迎えるので、それをきっかけに博物館ビジョンの作成が求められる可能性がある。そのときは新たな博物館法やご提案

いただいたデジタルアーカイブ化、展覧会や調査・研究についても、常にこのような方向性を想定しながら進めるべきというのが新博物館法の現状である。

- ・展示や研究の計画は、地域・経済へどういった貢献ができるのかについての説明が必要となってくる。

(委員)

- ・収蔵庫はすでにいっぱい、このままだと資料を収集できなくなる。武田や富士山をテーマとする2期整備工事、県の公文書館の設立、資料のデジタルアーカイブ化、レストランが休止中であることなど、課題は多い。自動販売機による飲料の提供だけでは、県の博物館としては寂しいのではないだろうか。そういったところを要望していかなければならない。

(委員)

- ・博物館は一般的には役に立たないとされてきている可能性がある。博物館は、山梨県の未来、日本の未来に関わっている。みなさん一人ひとりの研究が、県民にどんな利益・効果があるのかを説明できるようにして、博物館と本庁が十分に連携できるようにしてもらいたい。

(委員)

- ・県立博物館の学芸員には山梨県出身者がいない。逆に他所からの視点で山梨を見、山梨のことを掘り下げて、県民・国民に発信できるのではないかと期待している。

(6) 閉会